

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/28

<p>団体名</p>	<p>あいむ</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>福岡の繁華街・天神で社会的に孤立している10代の子ども・若者のための居場所事業</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>		<p>■活動風景</p>		
<p>●地域の望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>当団体の実現したいビジョンは、「子どもたちのどんな『わたらしさ』にもあたたかな居場所を」である。 具体的には、経済的に困窮している家庭で育ていたり、虐待が家庭内であったり、個人的であるがゆえに孤立し、不登校になっていたり、もしくは、海外をルーツにした子どもがいたり、現在は様々な状況下におかれている子どもがいるが、どんな状況であれ、どのような子どもたちも個性が大切にされ、居場所があると感じられる社会づくりをめざす。 地域の望ましい社会状況としては、上記のことが達成されている状況と、地域に子ども・若者支援の担い手が増えることが望ましい姿である。</p>		<p>声掛けをしている公園内で7月から開始した居場所の様子</p>	<p>説明：毎回10人前後の利用がある。おにぎりやからあげなどの軽食を提供している。</p> 
<p>●団体の社会的役割（ミッション）</p>	<p>当団体の社会的役割(ミッション)は、「適切なタイミングで適切な場所を頼ることが出来る社会と人づくり」である。具体的には、以下のような取り組みを推進する。 1)こちらから何かしらの困難を抱えている可能性の高い子どもたちに声をかけて、信頼関係を作って、相談をしたり、頼ってもらえるようなセーフティネットを作る 2)まだ実現できてはいないが、将来的にしたい事業として、小中高生向けに相談をする際に気を付けることなどを教えたり、そもそも、人を頼ることは悪いことではなく、してもらったことなんだということを教えるような授業をしていきたいと思っている。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>●人材育成： 座学というよりは、現場の経験を積み重ねて、団体のビジョン・ミッションを大事にしながらも、その人の価値観を重視した人材育成。自由と安心が共存する組織文化の中で人材育成を行いたい。 ●リソースの確保： 人材もモノも紹介などで集まってくることが多いため、地域の横のつながりを大事にする。 ●活動資金： 自主財源(寄付・事業収入)を十分に確保し、必要な部分に対して団体の考えのもと、必要なタイミングに必要な出費ができる状態。 ●ナレッジ： 代表を中心に外部の専門家も招いたマネジメント会議（月1回程度開催）で支援者がどのように当事者と向き合うかなど、団体としての方針を随時更新していく。</p>			
<p>■活動報告</p>		<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>学校や社会に居場所がなく福岡市内にある繁華街の警固公園に集まっていて、社会的に孤立している子どもに相談支援や居場所で軽食の提供を行ってきた。具体的には、頼れる大人が家族を含めていなかったり、虐待を受けて家出をしていたり、グループホームを強制退去していたり、ネットカフェ難民になっている子どもに対して支援をしてきた。他団体がなかなか出来ていない土日祝日の対応や夜間・緊急対応も行ってきた。 面談の際は、行政・警察・他民間団体と連携して、主に職・住居などの支援を行った。スムーズに他機関と連携をしたことで、当事者に提供できる社会資源が増えたと感じている。 また、居場所の運営は、面談に繋げるための信頼関係を構築する場として開催した。居場所に来て、家庭環境に課題のある子どもから「フリースペースの空間がとても安心できた。みんながニコニコとご飯食べたりして過ごしていて、こんなにあったかい場所があることに救われた。」という感想もあった。</p>		<p>この1年間の活動をして、達成したことは以下のとおりである。 【相談事業】 ・204名の面談を実施。(目標は96名) ・スーパービジョンも開始した。 【居場所事業】 ・16回の居場所を実施、191人が参加。(目標は12回開催) ・当事者の意見も取り入れながら、ルール作りも行い、居場所に参加する際は面談が出来るだけするようにし、ケースマネジメントに繋がった子どももいる。 【他支援機関にリファーする】 ・結果的に76件、リファーした。他団体に訪問することで、リファーする先も増え、連携もしやすくなった。 【団体内支援力強化】 ・支援マニュアルを作成し、活動に参加する支援ボランティアに対し、説明をした。 ・スタッフの研修・マニュアル作成・会議も10回行うことができた。</p>		
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<p>・関係を築ききるまでは、突き放すようなことや厳しいことは言わないことで、信頼関係が長く続く ・本人が支援を受けるとい意思を持つまで、支援を押し付けない ・統制された情緒的関与の法則を守り、冷静な判断が出来るような余裕を持つ ・なぜ、当事者がそのような行動をしたのか、物事の背景、社会の構造まで考えを巡らせ、メディアなどを通して、社会に啓発することで、社会の認識は少しずつだが、変わってくる</p>		<p>まだできていないことや見えてきた課題は、以下の通りである。 【相談事業】 ・子どもは相談に繋がるタイミングもあれば、そうでないタイミングもあり、辛抱強く、長く関わり、本人が自立に向けた気持ちの準備が整ったときにより手厚く支援することが必要 【居場所事業】 ・開催頻度が低いので、開催頻度を高めたい。 【他支援機関にリファーする】 ・公的機関や制度の情報を出来るだけ得て、紹介できるようにしていきたい。 【団体内支援力強化】 ・スタッフも増えたため、より研修などを手厚く行い、育成をしていきたい。</p>		<p>この1年間の活動を通じて 395人の子どもに居場所と相談の機会を提供し、人材育成などの組織強化 を達成しました。</p> <p>■受益者の具体的な変化（自由記入） 「相談できる大人ができた」という声や「居場所で気軽に相談できる」という声があった。また、家出を他県からしてきて、住居がなかった子どもを住居を繋ぐことなどができた。</p>